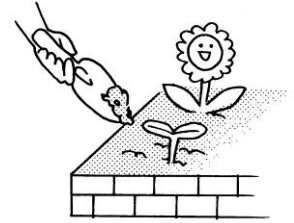


ぼかしの使い方



“ぼかし”とは、有用微生物群（EM等）とモミガラなどが入った発酵堆肥化促進剤のことを言い、生ごみと“ぼかし”を密閉容器に入れておくことで微生物の働きにより生ごみを発酵させることができます。発酵したものを土に埋めることで、栄養豊かな堆肥が完成します。

☆ 準備するもの☆

- 密閉容器
- ぼかし
- 生ごみ



1 密閉容器によく水切りした生ごみを入れます。

【ポイント!】 野菜は細かく切ったほうが発酵が早くなります。

2 生ごみの上に“ぼかし”をふりかけます。三角コーナー一杯分に対し、“ぼかし”を一握り分（20～30g）くらい



【ポイント!】 魚や肉がある時や、夏場は少し多めにふりかける。

3 微生物は空気を嫌うため、キッチリと密閉します。



【ポイント!】 悪臭発生の原因になりますので、しっかり密閉します。

4 1～3を容器がいっぱいになるまで繰り返す



【ポイント!】

水分が多い場合、ぼかしの多めにかけるか、切った紙を入れてもよい。

5 容器がいっぱいになったら、しっかりフタをして、直射日光の当たらない場所で、1～2週間ほど置いておく。

蛇口付きの容器の場合、発酵液が溜まったら、こまめに取り出す。

6 漬物のような臭いになっていれば成功です!!あとは畑やプランターなど、土と混ぜて堆肥とします。

【ポイント!】

ぼかしを畑に埋める場合、ウネとウネの間に埋め、直接根に触れないようにする。プランターの場合は3層に分けて、土で挟むようにして使用するとよいです。

